

男より多い女の読書

This image is a horizontal collage of several columns of Japanese text, likely from a magazine or newspaper, featuring various styles of calligraphy and small illustrations. The text discusses a competition, mentions names like '岩木正子' (Iwaki Masako), '高萩正子' (Takahagi Masako), and '大竹孤松先生' (Otake Kōson sensei), and includes a small illustration of a person holding a fan.

「おはせはだれにも告げず薬を活用する事で奥山さんに一礼すると奥山さんの手元に持たれていたそれから三日程過ぎて田舎のお嬢さんは人の服いで奥山さんとお別れをしていくと奥山さんの手元に持たれていた是どりでスタッフと一緒に歩き出しましたが、奥山さんにはまだかなり仕事がまだ残るんですよ。」「口うなもんだから仕事がまだ残るんですよ。」「なんなことはありませんよ。田舎のお嬢さんはお嬢さんである美智子さんが奥山さんと一緒に歩き出さる」

秋深し物の数なる豆コケン
秋風にクルスが尖りゐる別
處風の暗さの中に針を打つ
けむり立つ秋の湯河原ひと
秋風や人の聲に触れし妻
萩の戸に遊縁といふ華纏の
星　渡辺　士田

二森秋舞子 めり
平子秋紅子 戦後の苦
山本潤千子 の深き
り秀ゆ 勝沼 一樓
田中 松洞 中に住り
角田 十壇 間近して
のよるにすると
さんは挨拶
さんがどのの誰
があるからお
あるならお
あるかとい
、講演の時
うのために
が政治家?
民の親しめ
改正して普
通話するで
はあれども
新聞をよく
いふ
けが手供と
ほなは邪魔
は反対しま
見れば最悪
てくれるど
できるとい
せんよ、長
ても老人が
らであら
かのオカ
せんじよ本當
を捶ひるこ
が皆で共
方が親とし
子の間は法
あんじやな
るやうな字

第2回 美譽に輝く石城の清酒 於東京
全國清酒品評会 優等賞

近
福
天
報

喜慶太平正